

第5期島根県竹島問題研究会委員

藤井 賢二

韓国の小学校教科書



ふじい・けんじ 日本安全保障戦略研究所研究員。島根県竹島問題研究顧問。島根県吉賀町出身。近著に「サンフランシスコ平和条約の領土条項と竹島」（日本国際問題研究所HP掲載）がある。

韓国の国定の初等学校（日本の小学校）6年生用社会科学教科書（2019年8月15日初版発行）では、全170ページ中12ページが竹島（韓国名「独島」）問題に割かれている。「韓半島の未来と統一」という章の前半で扱われているが、同じ章の後半の南北統一問題の10ページよりも多いのは、韓国が竹島問題を重視している表れなのだろう。

竹島問題の項目は「日本の漁夫たちは無慈悲で残忍にアシカを捕え、結局独島のアシカはしだいにいなくなってしまう」と訴える

日本を揺さぶる手法教える

漫画で始まり、日本は「我が地独島」を1905年に「不法的に編入」したと強調する。しかし、韓国領の証拠だと子どもたちに示される次の資料群に説得力はない。

注意すべきである。世界的な環境危機意識の高まりもあって、竹島でのアシカ猟に子どもたちが厳しい視線が向ける可能性がある。

16世紀の「八道総図」が示され、「当時の地図には于山島（独島）を実際と異なり鬱陵島の西側に描いた」という説明がある。子どもたちにその理由を尋ねられた教師はどう答えるのだろうか。言うまでもなく竹島は鬱陵島のはるか東にある。李榮薫『反日種族主義との闘争』によれば、韓国のある高名な学者は「于山島に対する朝鮮王朝の強

竹島問題の項目の最後に課題が設定されている。1877年の「太政官指令」で明治政府は竹島が日本領ではないと認めたと決めつけ、これを使って「独島が日本領土だ」というウソの主張を信じている人たちが説得する文章を作るといふものである。日本を揺さぶる手法を韓国では小学生に教えている。事態は深刻である。

【注】（筆者より追記）

「3段目の「厳しい視線が」を「厳しい視線を」に訂正します。」